

留学報告書

・留学先・期間

スイス連邦工科大学チューリッヒ
2019年9月～12月

・留学時期を決めた理由

修士を2年で卒業したいと思っていたため、就活を終えてからということでこの時期に決めました。1学期だけという短期間の留学で、また並行して修士論文も進めることになり、ハードでした。勉強以外の興味を深めることや旅行を含めて留学を満喫するには、やはり1年あった方が良いと思いますが、それでも多くのことを学べたと思います。

・留学先大学への入学手続き

基本はETHと東大からの指示の通りに動けばスムーズに行えました。IELTSやTOEFLは結果が出るまでに時間がかかるので注意してください。奨学金の募集もものによってはかなり早いので、留学を考え始めた時点で、昨年度の募集要綱を確認して応募する奨学金とメッチに当たりを付けておくとよいと思います。授業の履修登録では、人数制限のある科目だと先着順の場合もあるので、登録が始まったらすぐ興味があるものは登録しておくとういいます。

・ビザの手続き

ETHへの留学では日本での手続きは特に有りませんでした。入国後に学校で書類を受け取り、指示通りに役所で手続きを行いました。

・医療関係の準備

出発直前に体調を崩してしまったので念のため英語の紹介状を持参しましたが、結局問題ありませんでした。その他は歯科検診などに行きました。

・保険関係の準備

付帯海学に加入しました。スイスの保険への加入も必要で、申請をすれば免除することもできるのですが、申請が通らないことも多いと聞いたので、ETHに紹介されたSwisscareという保険に入りました。月々69CHFでした。

・留学にあたって所属学部で行った手続きなど

最終学期での留学だったので、全学への応募前に何度か所属研究科の事務の方、担当教授とそれぞれ相談しました。修士論文の作業を早めに進め、留学中はスカイプミーティングも行いました。

・語学関係の準備

IELTS受験のためスカイプ英会話を受講し、渡航直前には短期で英会話教室にも行きました。スピーキングにある程度慣れてから手続きや友人との会話ができてよかったです。ドイツ語は学期開始前2週間のインテンシヴコース(A1)を受講しました。話せるようにはなりませんが、買い物など日常生活で役立ちました。

・日本から持参した方がよいもの

チューリッヒ駅の近くに日本食材店があるので、食材は思ったより困りませんでした。ランドリールームが共用と聞いていたので、下着を自室で干すためのピンチを持参しました。模型道具・材料はスイスに無いものも多かったので、一時帰国の際にスチノリ、Gクリヤー、ぞうさん等を持参しました。

・学習・研究の概要

メインは設計スタジオ(Tom Emerson)で、その他に座学系の授業2つ(メディア・歴史)と実習型の授業2つ(デジタル・機械学習)、1週間のセミナーウィーク(VR)を受講しました。他にスタジオに付属したレクチャーもあり、バランスよく学べたと思います。修士論文の現地調査も行いました。

・一学期当たりの履修科目など

火・水曜は設計スタジオのエスキスや発表でつぶれるため、作業は他の時間に行っていました。歴史はリーディングの授業だったため、事前に課題図書の前読の必要がありました。

・学習のアドバイス

実習型の授業はどちらも初挑戦の分野だったので学びは多かったですが、週一回の授業なのもあり入門で終わった印象でした。その分野を極めたいのであれば、スタジオで選択するか、研究メインにするとよいかと思います。

・語学面での苦労

英語を話せる人がほとんどなので日常生活では困りませんでした。スタジオの最初の2週間で、スタジオのメンバー全員でパビリオンを設計・施工するという時には、私の班の他のメンバーは全員スイス人だったので、ドイツ語で議論されてしまうと把握できず苦労しました。基本的にはみんな優しく、英語で議論しようとしてくれましたが、申し訳ない気持ちになりました。その分他の部分で挽回しようと模型作りや案出し等で努力しました。

・宿泊先

ETHからの指示に従いWOKOを通してのCaesar-Ritz-Strasseという寮を借りました。留学生15人でキッチン・シャワー・トイレをシェアしていました。家賃は563CHFでしたが、部屋によって違うようです。人数が多かったため様々な国の友人ができてよかったです。私の階は皆穏やかで過ごしやすかったのですが、他の階では騒がしいところもあったようなので、ルームメイトに関しては運が大きい気がします。

・生活環境

空気が乾燥していて、早々に喉を痛めそうになってしまったので、加湿器などあるとよいと思います。交通機関に関してはSwissPassというカードを作り、そこに登録される電車やバスの運賃が半額になるHalf Fare Cardと、ゾーン内の定期を購入しました。遠出する時にHalf Fare Cardの存在は大きいです。夜から朝にかけて国鉄が無料になるseven25もあります。あまり遠出しなかった所以我は買いませんでした。カードは海外手数料等を比較してSONY銀行のSony Bank WALLETを作り、基本はそれを使っていました。

・危機管理関係

スイス国内の治安はよかったです。その感覚のまま他のヨーロッパの国に旅行に行ってしまうと危ないなと思いました。また、帰国の便がカタール経由だったのですが情勢が悪化したため念のため飛行機を変更しました。

・毎月の生活費と内訳

私は固定費として家賃563CHF、携帯40CHF、定期62CHF、保険70CHFで735CHF、外食を含めた食費が450CHF程度で、最低限の生活費自体は1200CHFほどだったのでトビタテの16万円で賄えましたが、初期費用や旅行、模型材料など含めると足りなかった。進学のために頂いている奨学金でやりくりしました。

・留学に要した費用総額とその内訳

4カ月強で130万円程です。帰国直前に情勢が悪化して飛行機を変更したため航空券が高くついてしまいました。

・奨学金

官民協働海外留学支援制度～トビタテ！JAPAN日本代表プログラム～(給付) 月16万円+準備金25万円

・学習・研究以外の活動

学期が始まる前のドイツ語インテンシヴコースの期間中はルームメイトとハイキングに出かけたり街を散策したり等しました。私は利用しませんが無料のジムもあり、利用している人が多かったです。ESNという団体が留学生向けのイベント(パーティー、ハイキング等)をたくさん開催していて、何度かルームメイトと参加しました。

・留学生へのサポート体制

留学生が多いからか手続きなどもスムーズで、親切でした。

・大学の設備

設備は充実していました。食堂は6-12CHFほどで、Honngerbergキャンパスには3-4カ所食堂のようなものがありました。Centralキャンパスでは隣にあるチューリヒ大学の食堂も利用できました。建築学科ではプロッター・レーザーカッター・3Dプリンター、木材を扱える工房などがありました。

- ・留学が就職活動に与えた影響

留学前に就活を終えていましたが、留学を通して今後どのように働いていくか、自分がこれからできることは何なのかなどの考えがより深まりました。就活前に行くよりも具体的に将来のことをイメージしながら学べたと思います。やはり就活前に行く方が選択肢は広がるとは思いますが、就活後でも行く価値はあると思います。

- ・留学の意義、

日本から離れ、別の文化に触れたことで改めて自分自身や建築のことを一歩引いた目で考えることができ、考えの幅が広がりました。また個人的なこととしては、香港からの留学生の友人ができたことで、世界の他の場所で起きていることも、昔より自分事として感じられるようになりました。

- ・メッセージ

学部に入學した頃は留学なんてお金もかかるし夢のまた夢だな、と思っていました。でも実際は全学やトビタテ、その他の奨学金など様々なサポート体制が整っていて、周りの助けもあり留学を実現することができました。やろうと思って行動すればどうにかできることも多いです。大変なことはあってもかけがえのない時間になると思います。がんばってください。